

## 近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 (①必修07-14-4/5)

### 目 的

近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型建造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

### 成 果

#### 1. 洋紙の保存と修復

ア) 明治維新以降急速に普及した洋紙の保存に関して、また、建築物や列車（御料車など）の室内装飾に使用された裂地などの保存と修復に関して、国内の専門家と共に調査研究を行った。さらに、専門家を招き、研究会を2014（平成26）年11月21日に東京文化財研究所地階セミナー室にて実施した。

イ) メキシコ及びカナダの国立公文書館において、洋紙の保存と修復に関する現状調査及び関係者と情報交換を実施した。

#### 2. 屋外展示物

ア) ドイツの産業遺産を往訪し、保存理念や、周囲との関係を考慮した保存・修復手法の調査を実施した。

イ) 屋外展示されている鉄道車両や航空機など金属を主体とする文化財の防錆対策のために試験片を作成し、日本国内の6カ所において曝露実験を実施した。

#### 3. 建造物・構造物

新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡、静岡県伊豆の国市韮山反射炉、山口県萩市の反射炉や長崎県長崎市端島（軍艦島）、さらには足尾銅山跡の各施設等、史跡指定地内の建造物や構造物の保存と修復に関する現地調査を実施し、現状を把握するとともに、具体的な修復手法に関する討論を実施した。

#### 4. 報告書：前年度実施した研究会『近代テキスタイルの保存と修復』をまとめ報告書を製作し配布した。

#### 5. その他

航空機関連の設計図面あるいは明治後期から大正期、昭和初期にかけて記録された関連資料などのデジタル化を行うなど、貴重な資料を後世に遺すべく現地での状態調査および保存手法の研究を実施した。

### 論文

・森井順之、朽津信明、中山俊介「史跡・韮山反射炉の保存環境について」『土木史跡の地盤工学的分析・評価に関するシンポジウム』地盤工学会 pp.167-168 14.10

・中山俊介「近代テキスタイルの保存と修復」『近代テキスタイルの保存と修復』 pp.4-17 15.3

### 発表

・中山俊介「洋紙の保存と修復」洋紙の保存と修復に関する研究会 東京文化財研究所 14.11.21

・中山俊介「保存科学による文化遺産の修復－建造物を中心に－」台湾総督府鉄道部の保存修復活動における講演会 国立台湾博物館 14.12.20

・中山俊介（基調講演）「近代文化遺産の保存と動態保存に関して」第33回シンポジウム「日本の技術史を見る眼」中部産業遺産研究会 15.2.22

・森井順之、朽津信明、中山俊介「史跡・韮山反射炉の保存環境について」土木史跡の地盤工学的分析・評価に関するシンポジウム 地盤工学会 14.10.10

### 刊行物

・『近代テキスタイルの保存と修復』東京文化財研究所 15.3

**研究組織**

○中山俊介、朽津信明、早川典子、森井順之、小林芳妃（以上、保存修復科学センター）、小堀信幸、横山晋太郎、長島宏行、堤一郎（以上、客員研究員）